

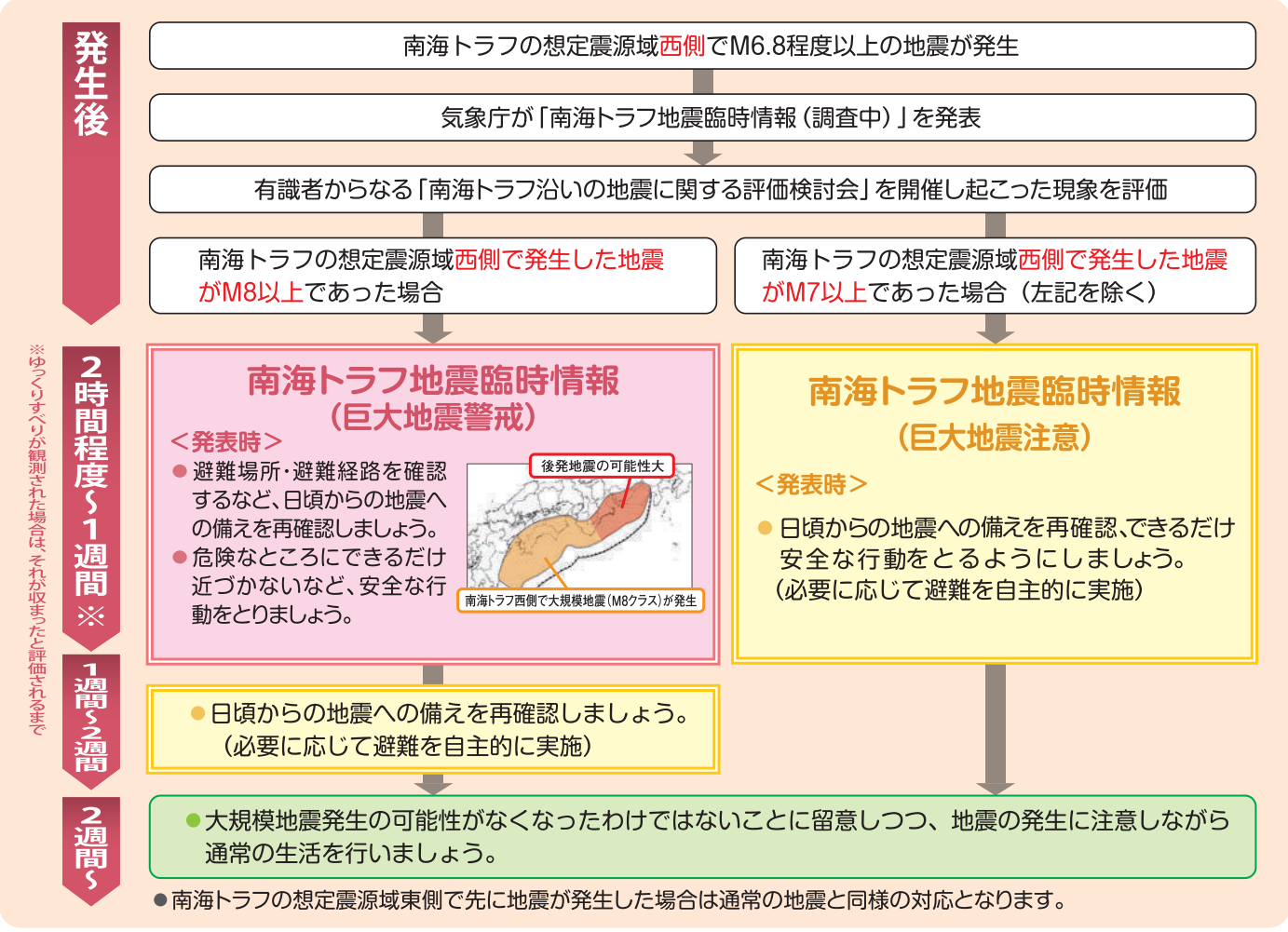
南海トラフ地震に備えよう

令和元年5月から気象庁による「南海トラフ地震臨時情報」の提供が開始されました。

この情報は、南海トラフの想定震源域内の一部の領域で大規模地震が発生し、残りの領域で後発による大規模地震発生の可能性が高まったと評価された場合に発表されます。



地震発生後の防災対策の主な流れ



※岐阜県「迫る地震に備えよう」より作成

震度と揺れの状況

（気象庁震度階級関連解説表より作成）

震度0 人は揺れを感じない。	震度4 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。	震度6弱 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。
震度1 屋内で静かにしている人の中には揺れをわずかに感じる人がいる。	震度5弱 大半の人が恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。	震度6強 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが多くなる。
震度2 屋内で静かにしている人の大半が、揺れを感じる。	震度5強 物につかまらなさと歩くことが難しい。	震度7 耐震性の低い木造建物は、傾くものや倒れるものが多くなる。
震度3 屋内にいる人のほとんどが揺れを感じる。		

